平成３０年１２月１３日

下野市議会議長　秋 山　幸 男　様

議会だより編集委員会
委員長　中 村　節 子

議会だより編集委員会行政視察報告書

議会閉会中、当委員会の視察調査を実施しましたので、その結果について報告いたします。

１．視察期日及び視察地

平成３０年１０月２９日　　石川県加賀市
　　３０日　　石川県白山市

２．参加者

委 員 長	中 村 節 子	副委員長	大 島 昌 弘
委　　員	坂 村 哲 也	委　　員	高 山 和 典
委　　員	五 戸 豊 弘	委　　員	相 澤 康 男

３．視察事項

「議会広報について」（石川県加賀市）
「議会広報について」（石川県白山市）

４．視察内容

今回の視察は、平成17年10月に１市１町が合併し発足し、本市と同規模の人口約67,000人の加賀市議会と、イラストやレイアウトを若者向けに見やすく改善し、近畿市町村コンクールで優秀賞を受賞した白山市議会を訪問し、議会広報について研修した。

（１）石川県加賀市議会

広報・広聴等の所管は議会活性化特別委員会である。定数は現在７名で、慣例により副議長が委員長を務めている。他のメンバーは、会派幹事長、１・２期議員が選出されており、その中の広報部会（１・２期議員　５名）により、議会だよりの編集作業や、ケーブルテレビを使用した広報動画の作成等が行われている。

編集作業は、広報部会を２回、正副部長会議を１回実施し、紙面構成、スケジュール確認、原稿の内容確認、訂正箇所等の協議を行い、定例会翌月の25日前後に全世帯へ発送している。当市議会と比べ会議の開催回数が少なく、発行も当市議会だよりに比べ約２週間早い。

平成28年度から、議会だよりモニターを実施している。これは、議会の一番の情報源である議会だよりを、市民にわかりやすく読みやすい内容で発信するためのもので、モニター員は概ね10人。年４回発行される議会だよりを読んでの意見・提案記入用紙(アンケート形式)の提出と、年１回の正副議長・広報部会との意見交換が主な仕事内容である。

市民モニターからの意見により、さまざまな工夫・改善がなされていた。主なものとして、８ページ２色刷りから12ページフルカラーへ内容を充実、さらに29年度からは16ページフルカラーとしている。また、議員質問の記事スペースの増加や議案審議以外の特集記事の掲載を開始し、質疑・一般質問に「議員のひとこと」を追加。文字を大きく文字間を広げて写真やイラストをできる限り多く使用。フェイスブックのＱＲコードを掲載する等である。市民の意見を大切にしながら、より開かれた議会づくりに向けて工夫がなされていることが窺える。

中でも、ＱＲコードが随所に配置され、詳しい情報はホームページから閲覧できるよう案内されているため、議決一覧は賛否が分かれた議案等のみを掲

載するなど、文字の大きさに気を付け、見た瞬間にわかりやすいものとすることを心掛けられていた。

（２）石川県白山市議会

広報広聴委員会の委員は６名で、３常任委員会からそれぞれ、副委員長と推薦者１名の計２名を選出、任期を２年とし、１号発行につき、４回の委員会が開催されている。

議会だよりの編集は、一般質問の原稿を質問した議員が作成し、それ以外の記事は広報広聴委員会の委員が作成している。２回目から４回目の委員会には、印刷業者が参考人として出席している点は興味深い。

多くの市民に読んでもらえる紙面づくりを目指して、平成27年６月に12ページ、フルカラー印刷にリニューアルしている。この時に紙面のデザインやレイアウトを印刷業者のデザイナーに任せ、左開きの横書きとし現在に至っている。タイトルや見出しは大切なところであるため、デザインはある程度プロに任せることが必要とのことであった。フルカラーと言っても、あまり派手過ぎずに抑えた色合いのため、違和感なく落ち着いた紙面となっている。

表紙のイラスト化についても、リニューアルを機に、これまでの写真からイラストへ変更している。市内にある短期大学の美術学科に依頼し、年４回の発行に合わせ、春夏秋冬をテーマに学生の感性に任せたイラストを書いてもらっている。地元の大学に通う学生のイラストの掲載で、より親しみの持てる議会だよりを目指しているということであった。

紙面づくりの際の留意点は、一つは記事のコンパクト化である。難しいイメージを払拭するため、できる限り文字数を削減し、わかりやすくまとめる工夫がされている。また、余白を広くとり、ゆったりとした紙面づくりとなっている。もう一つは、若い世代をターゲットにし、硬いイメージを払拭させるような工夫である。まず手に取ってもらえるように、明るいイメージや表紙のイラストなど、インパクトを出すようにしている。そして、紙面上に写真やイラストを多用することで、視覚に訴えていた。

紙面向上への取り組みとして、毎年、毎日新聞社の研修に参加しており、近畿市町村広報紙コンクールへも出品し、毎日新聞社賞を受賞している。昨年度は、視察研修費を使って講師を招聘、表紙、イラストの宣伝をしていただい

たため、今年度の視察受入れが一気にふえたとのことであった。

５．まとめ

２つの市議会を視察して、今後本市議会においても研究・検討したいことを申し述べる。

（１）議会だよりへの市民参加について

白山市議会では、「市民の声」として、「市議会に期待すること」をテーマに市民からの意見を掲載している。これは当初から掲載しているもので、市内28地区からバランスを考慮して人選しているとのことであった。傍聴者の声の掲載については、幅広い層にならなかったため現在は掲載されていない。

当委員会でも “市民に身近な議会だより”を目指し、小学生に議会だよりの題字を書いていただいているが、市民の皆様に親しまれ、読んでいただけるよう、市民の声の掲載等さらに検討を図りたい。

（２）議会だよりのモニター制度について

加賀市議会では、議会だよりモニターが実施されている。モニターから提出される意見を聞くことにより、議会だよりの改善につなげている。質問の見出しを口語体にするなど子供たちにもわかりやすく、興味を持たせる工夫もなされている。モニターの年齢は60歳以上が多いということで、若者の意見の収集に課題はあるが、市民の意見を聞くことは、紙面づくりにおいて重要である。当委員会でもモニター制度の導入についての議論を深めていきたい。

（３）紙面の工夫・活用について

加賀市議会の議会だよりでは、題字を「こんにちは　議会です。」と、親しみのあるタイトルとしている。白山市議会では、表紙デザインをイラストにすることによりインパクトを持たせており、ページ下には議員の禁止事項等を掲載し、余白欄も有効に活用されている。それぞれの優れた点を参考とし、より良い議会だよりとするためアイデアを練っていきたい。